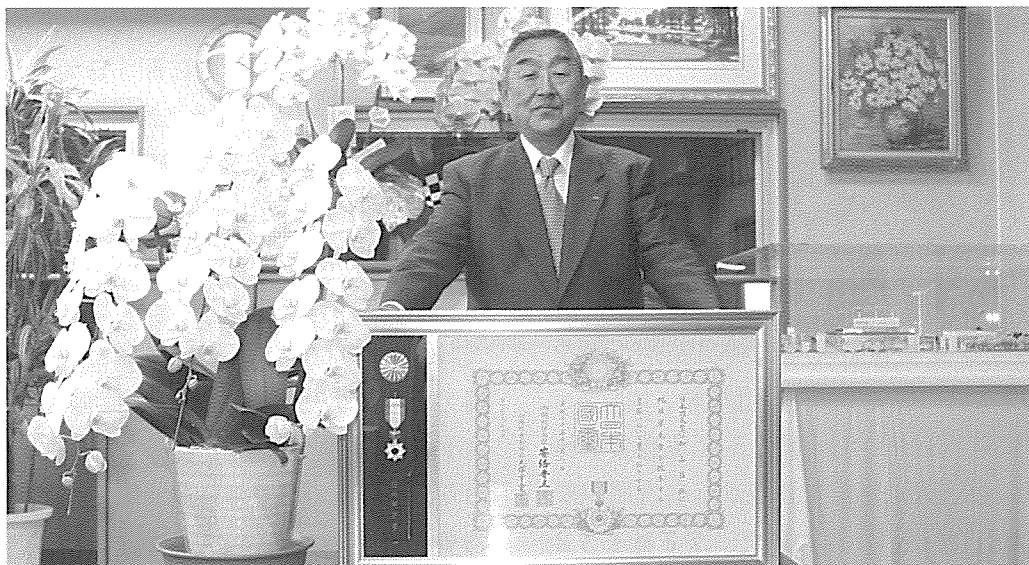


# NEWS

## 加山昌弘理事が旭日単光章を受章



毎年11月3日文化の日に発表される秋の叙勲にて、地方自治に尽力された方や、市町村の区域を活動範囲としている公益団体に永年にわたり功績のあった方に贈られる「旭日単光章」を、一般社団法人愛知県産業廃棄物協会 前副会長を務められた加山昌弘氏／加山興業(株)が、「環境衛生功労」を受章されました。

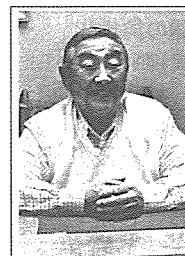
加山氏は高度経済成長期に、多くの工場から排出された汚水や廃ガス等による公害が社会問題となっている最中、先代から事業を引き継がれました。

大変な時代を経験されたこともあり、代表取締役を担われた40余年、適正処理を徹底し、「ごみ」か

ら「資源」へをコンセプトに、産業廃棄物を有価資源とするRPF固形燃料等においては他社に先駆けいち早く導入。リサイクル率の向上を目指すと共に、環境ソリューション事業にも取り組み、持続可能な社会の実現に向けて精力的に活動されています。

産業廃棄物への理解を深めるため、廃棄物の処理工程の「見える化」、子ども達に向けては環境教育として、工場見学、養蜂所におけるはちみつ採取等を行っています。

また、(一社)愛知県産業廃棄物協会前副会長として業界の社会的地位の向上に努め、現在は安全衛生委員長として業界の安全衛生の向上に日々貢献しています。



**旭日単光章**  
環境衛生功労

元県産業廃棄物協会副会長  
**加山 昌弘さん(71)**

### 環境教育広め啓発

経済成長で公害が大問題となり、廃棄物処理法が成立した一九七〇(昭和四十五年)、父の跡を継いだ。大手企業の産廃処理から始めた事は、社長を務めた四十年間で、リサイクルや環境教育など、再生エネルギー「開運まで広かった。自ら取組の現場で働きながら、小学生自治会役員

がら、水で流して埋めたり、山開削りや、ち捨てられた廃棄物(三〇年、父の跡を継いだ。「自らの家かご」を捨てる分の家かごを捨てる。その後、社長を務めた四十年間で、リサイクルや環境教育など、再生エネルギー「開運まで広かった。自ら取組の現場で働きながら、小学生自治会役員

の必要性を訴えてきた。税金が投入されて見えなくなるが、廃棄物の処理には多額の費用がかかる。廃棄物の行末がどうなるか、一人一人にもっと知ってもらいたい」と力強く訴えた。(名古屋南(市)区)

サイクルの現場を見てもらうには、副会長を務めた県産廃物協会でも、大向けの環境教育の必要性を訴えてきた。

中日新聞 平成30年11月3日付

